



80代まで頑張ります

「須津ボランティア」



△古い浴衣を切って、小ぎれづくり

婦人会役員の任期が終わるとき、このまま別れるのは寂しいということで、月一回集まり、ボランティア活動を始めました。13年前のことです。

そして、社会福祉協議会の紹介で、特別養護老人ホームの楽寿園で活動することになり、家族の協力を得て今も続いています。

現在会員は28人。毎月第4水曜日の朝、楽寿園のバスに弁当持ちで乗り込みます。仕事は名札つけ、ベッドのシーツ交換、食事や車いすでの散歩の介助など、多岐にわたりますが、お年寄りとの会話など、楽しいこともいっぱいあります。また、毎月1,000円ずつ貯金し、花見などのバス旅行も楽しんでいますが、静岡の楽寿の園に、平均年齢80歳のボランティアグループがあると聞き、今年の旅行は、楽寿の園の視察に決めました。

今、平均年齢60ちょっとの私たちも、80歳代まで頑張りたいと思います。

問い合わせ 保健婦人センター内
ボランティアセンター ☎64-7100

久沢の佐野幸市さん七十歳のお宅は、幸市さんで十三代続いている旧家。名字帯刀を許され、サトウキビで砂糖をつくらせていたので、屋号を「砂糖の家」と言っていました。今でも時たま、屋号で呼ばれることもあるそうです。

よくかまの柄に使われるので、和名は、「カマツカ」。また、別名「ウシコロシ」とも呼ばれ、かたいけれど弾力のある木です。刃の部分は、横幅が十センチあります。ちようなは、木を削る道具です。力を入れながら自分の足に向かって刃を振りまわす。スパッスパッと削っていきには、よそ見してたら自分の足を切ってしまうから、油断はできません。自分の足元をにらんで、注意深く使います。今は、電動工具の時代。もうめったに使われることもありません。

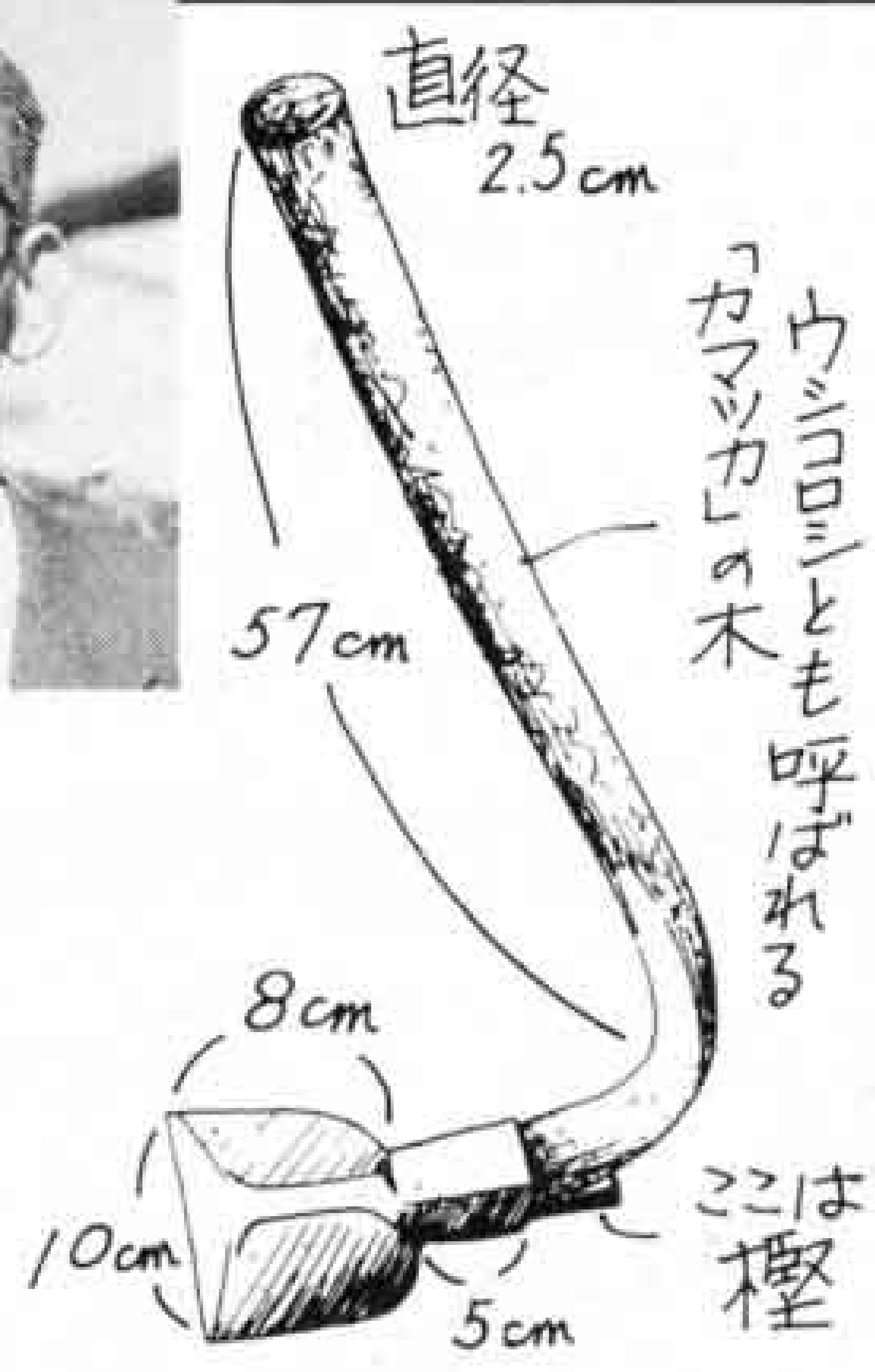
ちような



ちような(手斧)は、70種類はあると言う、大工道具のひとつです。「いい道具を使うのは自分のためだし、ちょっとくらい高くても一生ものの道具が欲しい」と、昔の大工さんたちは、大切に扱ってきました。



△佐野幸市さん



富士見台小学校の一年生は、毎日アスレチック広場や遊具で、元気に遊んでいます。青空の塔と、登り棒に登っている絵をかいてくれました。



ぼくのがっこうには、あすれちつくがあるよ。ぼくがいちばん好きなのは、あおぞらのとうです。三がいまである、たかいとうだよ。はやく、上までのぼれるといいな。



かめいけんさく



まいあさ、さあきつとをがんばっているよ。うんどうじょうを五しゅうはしって、てつぼうやのほりぼうをやるよ。いつも、おとうとのゆうごときょうそうしてらんだ。



はたのけいすけ

こちら編集室

国勢調査、御協力ありがとうございました。ところで、九月五日発行の広報ふじで、国勢調査による富士市の人口当たりに関するクイズを出しましたが、応募者は四百人。最高は二十三万二千三百三人、最低は二十二万六千六百十四人でした。当選者には十一月にお知らせします。